

四角な世界で、 三角に生きる。

怖いものも、只怖いものそのままの姿と見れば詩になる。凄い事も、己れを離れて、只、凄いのだと思えば絵になる。失恋が芸術の題目となるのも全くその通り。失恋の苦しみを忘れて、そのやさしい所やら、同情の宿る所やら、憂のこもる所やら、失恋の苦しみのものの溢るる所やらを、客観的に眼前に思い浮べるから文学の材料になる。—— 四角な世界から常識と名のつく、一角を磨滅して、三角のうちに住むのを芸術家と呼ぶ。

自己本位でいかなければ。他人本位で、根のない萍のよう^{うきくさ}に、そこいらをでたらめに漂っていたら、駄目なんです。自分の鶴嘴で掘り進めなければ、真実の鉾脈を掘り当てられない。

僕は人に厭がられるために生きています。そうでもしなければ苦しくって堪らないんです。生きていられないんです。——僕は無能です。幾ら人から輕蔑されても存分な敵打ちが出来ないんです。仕方がないからせめて人に嫌われて見ようと思うんです。

サンカク と文明

原作 夏目漱石 「草枕」「三四郎」「明暗」などより
作 五戸真理枝（文学座） 演出・美術 鳴海康平

出演

木母千尋（第七劇場）

亀田佳明（文学座）

比嘉崇貴（文学座）

諏訪七海

はましやか

牧山祐大（静岡県舞台芸術センター・SPACE）

2026年10月3日（土）14:00開演／18:00開演・4日（日）14:00開演

MIE CENTER FOR THE ARTS

三重県総合文化センター 三重県文化会館 小ホール

主催：三重県文化会館〔指定管理者：公益財団法人三重県文化振興事業団〕

助成：公益財団法人岡田文化財団、文化庁文化芸術振興費補助金（劇場・音楽堂等機能強化推進事業（地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業））| 独立行政法人日本芸術文化振興会

製作：合同会社 第七劇場